

埼玉県退職校長会 会報

題字・石田孝作
第175号
令和4年4月

雑木林

埼玉県退職校長会副会長 濱野紀生



過日、後期高齢者免許更新の為に、さいたま市の講習所で講習を受けてきた。

送迎バスの車窓から見えた松並木は、殆どが枯れていて、伐採の印であろうテープが巻かれていた。松の材線虫の害虫やら病原菌の繁殖やらで、枯れたのであろう。

私は、雑木林が好きだ。まず、四季それぞれの景観が美しい。

次に、生命を育む絶妙の場である。地中に微生物・虫も生き、地上には昆虫や鳥が飛び交い、獣も生活している。

若し、一種類の木の林で、その木の害虫や病原菌等が発生したら、林は壊滅的な被害をこうむり、そこに住む生き物は、大きなダメージを受け

てしまう。しかし、多くの種類の木が存在する雑木林では、ある種の木に病害虫が発生しその種の木が滅しても、林としての機能はなくならないし、そこに住む微生物・虫・鳥・獣に大きなダメージは生じないと思う。

更に、年数を経れば、林で滅した種の木も、鳥が種を運び、又再生していく。雑木林は、美しいのみならず、柔軟で多様で強いと思う。

多様な生物が林を支え、林は多くの生物を育んでいる。組織も同じと考える。

埼玉県退職校長会は、各会員・班・支部に支えられ、県退職校長会は、各会員・班・支部を支えている。会長を中心に、事務局の方々が、会員の方々の多種多様な意見を検討し、その時の状況に応じた適切な判断がなされ、会が運営されていると感じる。柔軟な強い組織と思う。各支部も同様に、柔軟で

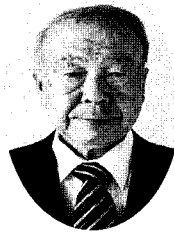
- 1 巻頭言
- 2 理事会報告
- 3 いまを生きる
- 10 定期総会案内
- 11 一人一言
- 17 長寿会員・物故
- 18 会長
- 19 研究調査報告
- 20 文芸

目つ強い組織と思う。

ここ2年間、新型コロナウイルスの影響で、従来通りの活動も、

教員不足解消に向けての一考察

北足立北部支部長 秋池 功



令和4年2月1日の毎日新聞には、「教員不足」がトップ欄に掲載された。都道府県別に見ると、埼玉県では、小学校168名、中学校87名の不足(全国でワースト1位小)、2位(中)であった。(2021年度始業日の教員不足数)

教員不足の原因は、マスコミヤ文献等でも論じられ、文科省は、平成30年8月に教員不足の解消対策例として12項目の内容を挙げてている。

例えば、
○教職経験者等に対する特別選考の実施
○正規教員や臨時的任用教員等の年齢の上限引き上げ

儘ならぬことが多々あった。コロナに限らず、今後も環境や条件の大きな変化があり得る。然し、会の目的を中核に据えた、環境の変化へのより良い対応が、今後も更なる会の発展・更なる教育の進展を、推進するものと思う。

○退職教員の再任用としての積極的な活用
○ハローワークを通じた臨時的任用教員の求人、等々

対策例は、意義ある内容が含まれ、現在対策の多くが実施されていると思う。しかし、若い方や退職者を含めて臨時的任用者の勤務時間に柔軟性や任用制度の改革例は出していない。

私は65歳から70歳近くまで、通信制の私立高校で社会科の授業を担当した。興味を示さない生徒にどのようにして関心を持たせるか、創意工夫し、現職時代の経験をフルに生かし、プリント学習、討論、発表学習等を取り入れた。自分なりに楽しく、やりがいをもって勤めることができた。

5年間勤務できたのは、担当したのが教科の授業だけで

あり、勤務が毎日でなく、勤務時間も自分なりに選択できたからである。

今日の公立小・中学校でも県費の教科担当非常勤講師を積極的に取り入れる制度改革を行い、退職者や若者でも常勤でなくても勤務できるようになれば、臨時的任用者の希望も増えるかもしれない。行政担当者は、いろいろ対策を考えていると思うが、さらに前進を望みたい。

教員の数が増えれば、労働時間や事務処理、生徒指導等の負担軽減にも繋がる。

今年度、ある中学校で理科の臨時的任用者が決まらず、退職校長に依頼があった。しかし、勤務が5日間で、一般教員と全く同じ勤務時間であった。その方は、教科だけなら勤務ができるかと述べていた。

結局その学校は、市費の時間講師で対応せざるを得なかった。制度そのものを産休や育休、欠員補充、加配等の配置から多様な在り方を工夫すべきである。配置されるべき人数の教員が集まらないのは、児童生徒、保護者、教職員にとつて悲しいことである。国や地方行政は、教育予算の増加を積極的に推進して欲しい。また、政治家には、国会や地方議会で大いに教員不足解消を議論してもらいたい。